

1. 広島県における都市の目指すべき将来像

《広島県の基本理念》

将来にわたって、「広島に生まれ、育ち、住み、働いて良かった」と心から思える広島県の実現

目指す姿	仕事でチャレンジ！暮らしをエンジョイ！活気あふれる広島県 ～仕事も暮らしも。欲張りなライフスタイルの実現～		
3つの視点	「イノベーション」	「ファミリー・フレンドリー」	「都市と自然の近接ライフ」

県全域の都市における課題・潮流

急速に進む人口減少

大規模化する自然災害

都市構造の視点

- 低密度に拡散した市街地など**
 - 高度経済成長期における急激な人口増加やモータリゼーションの進展などにより、拡散した市街地が形成されてきたが、近年の人口減少、少子高齢化の進展により、未利用地が増加し、都市のスポンジ化が顕在化している。
 - 土砂災害警戒区域内など災害リスクの高い地域に市街地が存在するなど災害に対して脆弱な都市構造となっている。
 - 大規模商業施設の市街地郊外での立地や、消費行動の変化により中心市街地が衰退している。
 - 広域的な都市機能の拡散は、非効率な公共投資を招き、厳しい財政状況をさらに圧迫するおそれがある。
 - 人口減少やモータリゼーションが進展する中、特に地方部においては、公共交通機関の輸送人員の減少により、公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の一層の低下が懸念されている。
 - 市町村合併が進んだことにより、住民サービスの維持・向上や広域的なまちづくりに一定の成果が得られた一方、中心となる地域は整備されるが、周辺部は取り残される恐れがあることが懸念されている。
 - 近年の情報通信技術の発展により、人やモノがインターネットでつながるなど、暮らしが大きく変革しつつあり、こうした技術革新を暮らしの質の向上に役立てるための環境の整備が求められている。

国内外から魅力ある地域として選ばれるための視点

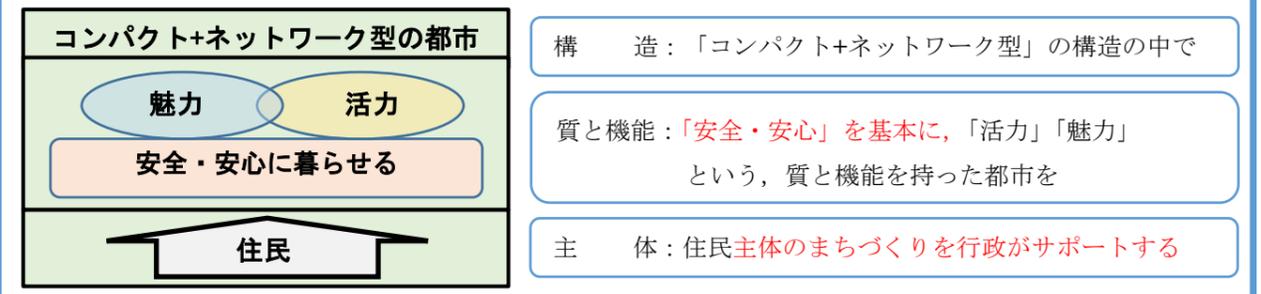
- 都市間競争の激化**
 - 広島県は、京阪神、九州の中間点に位置し、人口集積が困難な地理的特徴を有し、広島県や中四国の発展を牽引するためには、広島市や福山市が中枢都市として選ばれるための有効な施策の展開が求められる。
 - 企業の転出超過が続いており、企業活動を支える交通・物流インフラや都市機能等のさらなる充実・強化が求められている。
 - 平地が少なく、インターチェンジや幹線道路などの立地条件の良い企業用地の確保が困難な都市もある。
 - UIターンにより、特に生産年齢人口の移住・定住対策が求められている。
- 交流人口の増加**
 - 厳島神社(宮島)・原爆ドームの2つの世界文化遺産をはじめとした多様な地域資源が存在する。
 - 全国的に観光客が増加していることを契機とし、さらに観光客を増大させるためには、観光資源や地域特性を生かした魅力的なまちづくりが求められている。
 - 多様な人材をひきつける、質の高い魅力的な空間の形成(建物の高さがそらっているなどの洗練された都市景観、セットバックによる公共空間の活用等)や、多様な魅力を生かしたまちづくりが求められている。
 - フリーWiFiなどの情報通信環境やホテルの客室数不足など、観光客の受け入れ環境整備が求められている。

県民一人一人が地域に愛着と誇りを持ち、住み続けるための視点

- ものづくり産業の集積と将来的な地域経済の縮小の懸念**
 - 県内には、基礎素材型産業、加工組立型産業等のオンリーワン・ナンバーワン企業が数多く存在しており、ものづくり産業の集積に強みがある。
 - 企業の県外流出が進むことにより、労働市場は縮小に向かい、失業と人口の流出が起こり、そのことがさらに地域経済の縮小を招くおそれがある。
 - 生産年齢人口の減少や市場規模の縮小が避けられない中、経済が持続的に成長していくためには、イノベーションを通じて生産性を高め、新たな価値を創出していくことが求められている。
- 日常生活サービスの維持・向上**
 - 二次医療圏ごとのがん診療連携拠点病院の確保等、医療施設の充実が図られている。
 - 人口減少によって、日常生活サービス(小売・飲食・教育・娯楽・医療・福祉等)の立地に必要な人口規模を割り込む場合には、地域からサービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを入手することが困難になるなど、日々の生活が不便になるおそれがある。
- 災害・地球環境問題**
 - 自主防災組織の組織率の向上など防災に対する意識は高まっているが、平成30年7月豪雨において県下の広範囲に甚大な被害が発生するなど、がけ崩れや、溪流からの多量の土砂流出による土砂災害などによる被害が多発している。
 - 地球温暖化に起因する異常気象が頻発していることなどにより、地球環境問題への意識が高まってきており、環境に配慮したまちづくりが求められている。
- 住民ニーズや価値観の多様化**
 - 社会は成長期から成熟期へと移行し、これからのまちづくりは、量的な供給より、地域特性を重視するなど、質を高めることが必要となっているが、行政主導の画一的、公平なまちづくりでは、住民の多様化したニーズを踏まえたきめ細やかな対応が困難になってきている。
 - 住民の多様化したニーズを踏まえ、地域への愛着や満足度の高いまちづくりを進めるためには、地域のことを一番よく知る住民が主体的にまちづくりに取り組むことが求められている。
 - 住民等のまちづくりへの気運が高まる中、「つくること(開発)」だけでなく、「育てること(維持管理・運営)」の必要性が認識されるようになってきており、エリアマネジメントによるまちづくりが求められている。

広島県における都市の目指すべき将来像

《将来像のイメージ》



コンパクト+ネットワーク型の都市

- 日常生活サービスを効率的に提供するため、日常生活機能の集約などによる市街地の適切な密度の確保とともに、安全・安心に暮らせる環境を確保するため、災害リスクの低い土地への居住誘導
- 現状の車社会を踏まえた公共交通や超小型モビリティ[※]などの新技術の導入・転換による交通ネットワークの充実と、情報通信技術などの技術革新の進展を踏まえた情報ネットワークの充実による人・モノ・情報の高密度な交流の実現
- 重層的な拠点間ネットワークの形成による、周辺地域同士の都市機能の適切な分担
- 行政区にとらわれず、都市部や中山間地域の都市構造などそれぞれの地区の特性や地域資源を踏まえた、独自性のあるまちづくりの推進

※超小型モビリティ：自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる1人～2人乗り程度の車両

活力を生み出す

- 広島県が誇るものづくり産業を生かしつつ、クリエイティブな人材や産業のさらなる集積により、創造性が高く先進的なものづくりや新たな価値を生み出す独創的なビジネスモデルなどが創出されるイノベーションを通じて、経済成長を促進する魅力ある雇用・労働環境の創出
- 全ての人が生きがいや達成感を持って仕事に取り組みながら、健康的に暮らしを楽しむことができる生活環境の整備
- 市街地中心部への都市機能の集約や新たな都市機能の呼び込みによるにぎわいの創出
- 広域連携中枢都市圏の中枢都市を中心とした高次都市機能の集積・強化により、広島県全体の発展を牽引し、さらに中四国地方の発展に寄与

魅力あふれる

- イノベーションの原動力となる多様な人材をひきつける魅力的な都市環境や居住環境の整備・創出
- 広島県の特長である、「自然と都市が融合した暮らし」、「平和」をキーワードとする世界的な知名度、「内海と山々が織りなす食文化」など、地域の豊かな自然、歴史・文化等の資源を活用した多様な人々を呼び込む環境の整備・創出

安全・安心に暮らせる

- 県民の生命、身体及び財産を保護するため、自主防災組織、行政等が連携し、ハード・ソフト対策が一体となった総合的な防災・減災対策による安全・安心に暮らせる環境の整備
- 子育て世帯が生活しやすい、子育て、教育環境の整備や、高齢者にも生活しやすい都市基盤整備がされるなど、日常生活機能が維持された、誰もが健康で安心して暮らせる居住環境の形成
- エネルギーの面的利用や都市内緑化の推進等による都市の低炭素化に向けた取組の推進

住民主体のまちづくりが進む

- 住民の多様なニーズに対応するため、まちづくりの担い手として住民が自発的にまちづくりに参加することを促進し、主体的にまちづくりを行う人材の育成と活躍できる環境の整備
- 人と人のつながりを基軸とした住民主体のまちづくりが持続的に行われる体制や基盤の整備など行政との連携によるまちづくりの推進

2. 都市構造*の視点における都市の課題・潮流について

県全域の視点

■低密度に拡散した市街地など

- 高度経済成長期における急激な人口増加やモータリゼーションの進展などにより、拡散した市街地が形成されてきたが、近年の人口減少、少子高齢化の進展により、未利用地が増加し、都市のスポンジ化[※]が顕在化している。
市街地の拡散、**都市の低密度化**
- 土砂災害警戒区域内など災害リスクの高い地域に市街地が存在するなど災害に対して脆弱な都市構造となっている。
脆弱な都市構造
- 大規模商業施設の市街地郊外での立地や、消費行動の変化により中心市街地が衰退している。
中心市街地の衰退、**中心市街地の土地利用**
- 広域的な都市機能の拡散は、非効率な公共投資を招き、厳しい財政状況をさらに圧迫するおそれがある。
都市機能の拡散
- 人口減少やモータリゼーションが進展する中、特に地方部においては、公共交通機関の輸送人員の減少により、公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の一層の低下が懸念されている。
車への依存度、**公共交通ネットワークの縮小**
- 市町村合併が進んだことにより、住民サービスの維持・向上や広域的なまちづくりに一定の成果が得られた一方、中心となる地域は整備されるが、周辺部は取り残される恐れがあることなどが懸念されている。
市町村合併
- 近年の情報通信技術の発展により、人やモノがインターネットでつながるなど、暮らしが大きく変革しつつあり、こうした技術革新を暮らしの質の向上に役立てるための環境の整備が求められている。
情報通信技術

広域拠点都市の視点 (広島市・福山市の中心部)

○広島市の中心部

- 大規模商業施設の郊外立地により、紙屋町・八丁堀地区及び広島駅周辺地区の商業施設の利用が減少し、商業集積地として必要な密度の確保が懸念される。
中心部の商業機能の密度低下
- 商業用途としてゾーニングされている商業機能が集積する相生通りや平和大通りでも、現行の用途規制では低層階を含む全体が住居となる中高層マンションへの建替えが目立ち、商業機能の連続性が確保されず、賑わいの低下が懸念される。
中心部の用途混在
- 中心部のオフィス需要が高まっているが、更新時期を迎える老朽建築物がオフィスビルとして更新されず、オフィスの新規供給が進まないため、縁辺部から中心部へのオフィス業務機能の集約が進まず、マンションの建築が進んでいる。
中心部の商業・住居のゾーニングが不十分
- 中心部のエリアごとのまちづくりのコンセプトが策定されていないため、一部で個別の建替えが統一感無く進んでいる。
中心部の土地利用
- 広島市都心部では、公共交通機能が充実しているが、依然として民間駐車場の需要が高く、駐車場ビルやコインパーキングが散在するなど、公共交通と車の分担バランスについて検討が必要である。
車への依存

○福山市の中心部

- 商業機能の集積地として、必要な密度が低下している福山駅前では、コインパーキングの散在や、遊休不動産の増加など都市のスポンジ化が顕在化している。
中心部の商業機能の密度低下、**中心部の商業・住居のゾーニングが不十分**
- 商業用途としてゾーニングされ、商業機能の集積が必要な福山市の中心部では、郊外型店舗の進出等により、福山駅前の大型商業施設が撤退したまま遊休化し、商業施設が集積されず、賑わいが低下した状態が続いている。
中心部の商業・住居のゾーニングが不十分
- 福山市の中心部は、駅前に大規模な地下駐車場が整備される等、車に依存した都市構造であり、公共交通と車の分担バランスについて検討が必要である。
車への依存

地域拠点都市の視点 (人口集中地区及び各市町の中心部)

- 広島市の西風新都において、計画的な開発が進行しているものの、開発に伴い市街地が拡大し続けている。
市街地の拡大
- 福山市の北部地域など縁辺部で、幹線道路沿いに商業施設が次々立地し、その商業施設の周辺が市街化し、都市が拡散している。
市街地の拡大
- 地方拠点都市でも、人口減少による空き家や未利用地が増加し、今後、さらに増加傾向にあり、様々な問題が生じている。
都市の低密度化
- 商業施設が区画整理事業地等の新たに開発された区域へ移転され、人口集積が必要な駅前等の中心市街地の衰退がしているところもある。
中心市街地の衰退
- 今後発生する施設更新を考慮すると、新たに新規整備が困難となる公共下水道等の基盤整備が課題となり、非効率な公共投資を見直す動きが出始めている。
都市機能の拡散
- 広島市都心部と山陽本線や宮島線などの軌道系の公共交通機関で接続している都市においても、公共交通の利用が低く、車に依存した都市構造となっている。
車への依存

その他の拠点の視点 (市町の人口集中地区以外の拠点)

- 人口減少が進み、市場に流通しない空き家や空き地が増加している。
都市の低密度化
- 拠点の縁辺部では人口減少により、非効率な公共投資を招き、市町の厳しい財政状況をさらに圧迫するおそれがある。
都市機能の拡散
- 市町の中心拠点以外の地域は、車に過度に依存した都市構造となっており、公共交通が衰退し、特に移動手段を持たない高齢者のサービス水準の一層の低下が懸念されている。
車への依存、**公共交通ネットワークの縮小**

※都市構造：土地の利用形態や都市機能の配置など、都市を形成している土台や骨格。

※スポンジ化：都市の内部において、空き地空き家等の低未利用の空間が小さな敷地単位で、時間的・空間的にランダムに、相当程度の分量で発生する現象。

3. 国内外から魅力ある地域として選ばれるための視点における都市の課題・潮流について

県全域の視点

広域拠点都市の視点
(広島市・福山市の中心部)

地域拠点都市の視点
(人口集中地区及び各市町の中心部)

その他の拠点の視点
(市町の人口集中地区以外の拠点)

■都市間競争の激化

・広島県は、京阪神、九州の中間点に位置し、人口集積が困難な地理的特徴を有し、**広島県や中四国の発展を牽引するためには**、広島市や福山市が中枢都市として選ばれるための有効な施策の展開が求められる。

地理的特徴

・企業の転出超過が続いており、企業活動を支える交通・物流インフラや都市機能等の**さらなる**充実・強化が求められている。

企業の転出超過

交通・物流・情報インフラ, 都市機能

・平地が少なく、インターチェンジや幹線道路などの立地条件の良い企業用地の確保が困難な都市もある。

企業誘致

・U, I ターンにより、特に**生産年齢人口**の移住・定住対策が求められている。

移住・定住対策

・企業の転出超過が続いており、企業活動を支える交通・物流インフラや都市機能等の**さらなる**充実・強化が求められている。

企業の転出超過, 交通・物流・情報インフラ, 都市機能

・U, I ターンにより、特に**生産年齢人口**の移住・定住対策が求められている。

移住・定住対策

○広島市の中心部

・広島市は、京阪神、九州の中間点に位置し、福岡市や大阪市と比較して、人口集積が困難な地理的特徴を有し、**広島県や中四国の発展**を牽引する中枢都市として選ばれるためには、有効な施策の展開が求められている。

地理的特徴

・中四国を牽引する広島市にふさわしい都市機能の都心への集積が求められている。(札幌・仙台と比較して、MICEの開催件数が少ないなど)

都市機能

・広島市は、福岡や仙台と比較し、総合大学や空港の移転により、若者人口が少なく、空港へのアクセスが長距離となるなど、不利な状況にある。

都市機能

・本社・支社を都心に呼び込むための都心環境の整備が求められている。

都市整備

○福山市の中心部

・福山市は広島市、岡山市など政令指定都市と近接しており、人口集積が困難な地理的特徴を有し、備後圏域を牽引する都市として、有効な施策展開が求められている。

地理的特徴

・備後圏域を牽引する福山市にふさわしい都市機能の都心への集積が求められている。

都市機能

・福山駅前の事業所が長期的に減少している。

事業所の減少

・平地が少なく、インターチェンジや幹線道路などの立地条件の良い企業用地の確保が困難な都市もある。

企業誘致

・U, I ターンによる移住・定住対策が求められている。

移住・定住対策

・多様なワークスタイルに対応した高度情報通信インフラの整備や、都心との移動を容易にする交通機能の強化が求められている。

交通・物流・情報インフラ

・U, I ターン促進のため、空家の掘り起し、流通や上質な地域環境を作る必要がある。

移住・定住対策

3. 国内外から魅力ある地域として選ばれるための視点における都市の課題・潮流について

県全体の視点

広域拠点都市の視点 (広島市・福山市の中心部)

地域拠点都市の視点 (人口集中地区及び各市町の中心部)

その他の拠点の視点 (市町の人口集中地区以外の拠点)

■ 交流人口の増加

・厳島神社(宮島)・原爆ドームの2つの世界文化遺産をはじめとした多様な地域資源が存在する。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

・全国的に観光客が増加していることを契機とし、さらに観光客を増大させるためには、観光資源や地域特性を生かした魅力的なまちづくりが求められている。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

・多様な人材をひきつける質の高い魅力的な空間の形成(建物の高さがそらっているなどの洗練された都市景観、セットバック*による公共空間の活用等)や、多様な魅力を生かしたまちづくりが求められている。

都市景観

・フリーWiFiなどの情報通信環境やホテルの客室数不足など、観光客の受け入れ環境整備が求められている。

受け入れ環境

・全国的に観光客が増加していることを契機とし、さらに観光客を増大させるためには、観光資源や地域特性となっている歴史・文化等の価値を高めるとともに、それらを生かした魅力的なまちづくりが求められている。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

・フリーWiFiなどの情報通信環境やホテルの客室数不足など、観光客の受け入れ環境整備が求められている。

受け入れ環境

○広島市の中心部

・広島市の平和に関するシンボル性を生かし、広島平和記念公園にくる来場者が、本通りなどへ回遊する施策展開や、周辺地域への消費行動に転換できるようなまちづくりが必要とされている。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

・広島市は、高度経済成長期に建設された建築物が多く残存しており、建替えを契機とした高次都市機能の誘致が求められるが、一部がばらばらに個別建替えが進んでいるため、洗練された都市景観、セットバックによる公共空間の活用等が求められている。

都市景観

○福山市の中心部

・福山市の観光業は尾道市や廿日市市、広島市と比較して、市外からの集客に弱い傾向にあり、地域資源を活用し、観光消費を呼びこむ取り組みが必要とされている。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

・洗練された都市景観、セットバックによる公共空間の活用等が求められている。

魅力ある都市景観

・廿日市市は、景勝地である宮島の厳島神社が世界遺産に登録されたことを契機として、観光客数が年々増加しているため、観光客の廿日市市内での宿泊や消費行動につなげる取り組みが必要とされている。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

・尾道市や竹原市などの観光資源を有する都市において、観光客は増加傾向にあるため、これらの都市間の回遊性や界限性を向上させるための、連携が求められている。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

・庄原市東城町など、一部の地域で地域資源を活用したまちづくりが進んでおり、他の多くの地域へ、このようなまちづくりを波及させる必要がある。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

・全国的に観光客が増加していることを契機とし、古い街なみや中山間地域の農家住宅への観光客の誘致が求められている。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

・古民家のリノベーションなど、観光客の受け入れ環境の整備が必要である。

観光資源や地域特性を活用したまちづくり

*セットバック：建築物の外壁を敷地境界線から後退させて建てること

4. 県民一人一人が地域に愛着と誇りを持ち、住み続けるための視点における都市の課題・潮流について

県全域の視点

広域拠点都市の視点 (広島市・福山市の中心部)

地域拠点都市の視点 (人口集中地区及び各市町の中心部)

その他の拠点の視点 (市町の人口集中地区以外の拠点)

■ものづくり産業の集積と将来的な地域経済の縮小の懸念

・県内には、基礎素材型産業、加工組立型産業等のオンリーワン・ナンバーワン企業が数多く存在しており、ものづくり産業の集積に強みがある。

産業の集積

・企業の県外流出が進むことにより、労働市場は縮小に向かい、失業と人口の流出が起こり、そのことがさらに地域経済の縮小を招くおそれがある。

産業の衰退

・生産年齢人口の減少や市場規模の縮小が避けられない中、経済が持続的に成長していくためには、イノベーションを通じて生産性を高め、新たな価値を創出していくことが求められている。

イノベーション

・県内には、基礎素材型産業、加工組立型産業等のオンリーワン・ナンバーワン企業が瀬戸内海沿岸を中心に数多く存在しており、ものづくり産業の集積に強みがある。

産業の集積

・多様な活躍の場(イノベーションの原動力となる多様な人材の育成・集積を推進など)を創出するビジネス環境の形成が求められている。

イノベーション

・企業の県外流出が進むことにより、労働市場は縮小に向かい、失業と人口の流出が起こり、そのことがさらに地域経済の縮小を招くおそれがある。

産業の衰退

○広島市の中心部

・広島市の中心部では、大規模商業施設の市街地郊外での立地や消費行動の変化により、紙屋町、八丁堀の買い物客が減少傾向にある。

商業の衰退

・広島市は、小売卸業、サービス業などを中心に、八丁堀から紙屋町にかけての相生通りを中心に発展しており、街全体の機能更新を契機としたオフィス環境の改善が求められている。

オフィス環境の改善

・多様な活躍の場(イノベーションの原動力となる多様な人材の育成・集積を推進など)を創出するビジネス環境の形成が求められている。

イノベーション

○福山市の中心部

・福山市の郊外の小売店舗の立地に伴い、福山駅周辺の流動客の減少傾向が続く、地価公示価格も減少を続けている。

商業の衰退

・備後圏域の重要な交通結節点であるという立地条件を生かし、異業種の交流によるイノベーションや新たなビジネスチャンスを生むエリアになることが求められている。

イノベーション

・生産人口の減少や市場規模の停滞・縮小が避けられない中、経済が持続的に成長していくためには、イノベーションを通じて生産性を高め、新たな価値を創出していくことが求められている。

イノベーション

・地域の基幹産業である農林水産業等の衰退や、雇用の場の減少が深刻であり、更なる人口減少を招くおそれがある。

産業の衰退

・生産人口の減少や市場規模の縮小が避けられない中、地域資源の積極的な活用により、新たな価値を創出していくことが求められている。

イノベーション

■日常生活サービス(小売・飲食・娯楽・医療機関等)の維持・向上

・二次医療圏ごとのがん診療連携拠点病院の確保等、医療施設の充実が図られている。

日常生活サービスの充実

・人口減少によって、日常生活サービス(小売・飲食・教育・娯楽・医療・福祉等)の立地に必要な人口規模を割り込む場合には、地域からサービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを入手することが困難になるなど、日々の生活が不便になるおそれがある。

日常生活サービスの維持

・内科への30分以内アクセスの確保(島しょ部等を除く)や二次医療圏ごとのがん診療連携拠点病院の確保等、医療施設の充実が図られている。

日常生活サービスの充実

○広島市の中心部

・商業・業務など高次都市機能の集積や交通の利便性を生かし、高齢者や子育て世代など多様なライフスタイルに応じた都心居住を進めるため、住宅と業務、商業などの機能が適正に調和した、居住と生活サービスの近接した居住環境の構築を図る必要がある。

日常生活サービスの向上

・駐輪場整備が不十分であり、安全な歩行空間の確保が求められている。

安全な歩行空間の確保

○福山市の中心部

・福山駅前と福山駅周辺との連続性を生かし、高次都市機能に加え、日常生活に必要な施設やサービスが集積した、住み、働き、遊ぶことのできる便利で安心・安全で快適に暮らせる居住環境の構築を図る必要がある。

日常生活サービスの向上

・車優先で空間が整備されてきたため、福山駅前のにぎわいや回遊性を高める歩行空間やレンタサイクルなどが求められている。

安全な歩行空間の確保

・高度経済成長期に、都市縁辺部に造成した住宅団地の住民が一斉に高齢化し、人口減少によって、日常生活サービスの立地に必要な人口規模を割り込む場合には、地域からサービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを入手することが困難になるなど、日々の生活が不便になるおそれがある。

日常生活サービスの維持

・既に、人口減少により日常生活サービスの立地に必要な人口規模を割り込む地域でサービス産業の撤退が進み、生活に必要な商品やサービスを入手することが困難になった地域がある。

日常生活サービスの維持

4. 県民一人一人が地域に愛着と誇りを持ち、住み続けるための視点における都市の課題・潮流について

県全域の視点

広域拠点都市の視点
(広島市・福山市の中心部)

地域拠点都市の視点
(人口集中地区及び各市町の中心部)

その他の拠点の視点
(市町の人口集中地区以外の拠点)

■災害・地球環境問題

・自主防災組織の組織率の向上など防災に対する意識は高まっているが、平成30年7月豪雨において県下の広範囲に甚大な被害が発生するなど、がけ崩れや、溪流からの多量の土砂流出による土砂災害などによる被害が多発している。

災害リスクの高い地域の土地利用

・地球温暖化に起因する異常気象が頻発していることなどにより、地球環境問題への意識が高まってきており、環境に配慮したまちづくりが求められている。

環境に配慮したまちづくり

・旧耐震の建築物が多く存在しており、耐震化の促進が必要となっている。

建物の耐震化

・地球温暖化に起因する異常気象が頻発していることなどにより、地球環境問題への意識が高まってきており、環境に配慮したまちづくりが求められている。

環境に配慮したまちづくり

○広島市の中心部

・広島市都心のデルタ市街地は大雨時の洪水や台風時の高潮などで浸水が想定される。

災害リスクの高い地域の土地利用

・合流式下水道で整備している中心市街地では都市化の進展に伴う雨水浸透域の減少や局所的な集中豪雨による浸水被害が発生している。

災害リスクの高い地域の土地利用

・広島市の温室効果ガス排出量は横ばいであるものの、特に、社会経済活動が集中している都心では、エネルギーの消費が大きく多くの温室効果ガスを排出していることが懸念される。

環境に配慮したまちづくり

○福山市の中心部

・福山市の中心部は、大雨時の洪水などで浸水が想定される。

災害リスクの高い地域の土地利用

・広島県は、危険斜面が全国で最も多くある地形的な特徴を有しており、平成26年8月20日の広島市八木地区の豪雨災害等を契機として、災害に対する意識は高まっている。

・平成30年7月豪雨において県下の広範囲に甚大な被害が発生するなど、がけ崩れや、溪流からの多量の土砂流出による土砂災害などによる被害が多発している。

災害リスクの高い地域の土地利用

■住民ニーズや価値観の多様化

・社会は成長期から成熟期へと移行し、これからのまちづくりは、量的な供給より、地域特性を重視するなど、質を高めることが必要となっているが、行政主導の画一的、公平なまちづくりでは、住民の多様化したニーズを踏まえたきめ細やかな対応が困難になってきている。

多様化した住民ニーズへの対応

・住民の多様化したニーズを踏まえ、地域への愛着や満足感の高いまちづくりを進めるためには、地域のことを一番よく知る住民が主体的にまちづくりに取り組むことが求められている。

住民主体のまちづくり

・住民等のまちづくりへの気運が高まる中、「つくること(開発)」だけでなく、「育てること(維持管理・運営)」の必要性が認識されるようになってきており、エリアマネジメント*によるまちづくりが求められている。

エリアマネジメント

・都市は成長期から成熟期へと移行し、これからのまちづくりは、量的な供給より、地域特性を重視するなど、質を高めることが必要となっているが、行政主導の画一的、公平なまちづくりでは、住民の多様化したニーズを踏まえたきめ細やかな対応が困難になってきている。

多様化した住民ニーズへの対応

・住民の多様化したニーズを踏まえ、地域への愛着や満足感の高いまちづくりを進めるためには、地域のことを一番よく知る住民が主体的にまちづくりに取り組むことが求められている。

住民主体のまちづくり

・住民等のまちづくりへの気運が高まる中、「つくること(開発)」だけでなく、「育てること(維持管理・運営)」の必要性が認識されるようになってきており、エリアマネジメントによるまちづくりが求められている。

エリアマネジメント

○広島市の中心部

・広島市の広島駅周辺地区において、エキキタまちづくり会議などのエリアマネジメント組織が設立され、住民や事業者主導のまちづくりが進められている。この取組を紙屋町・八丁堀など、都心全体に拡大させ、新たな地域主働のまちづくりが求められている。

エリアマネジメント

○福山市の中心部

・福山市の駅前において、エリアマネジメント組織の設立に向けた取り組みが進められている。

エリアマネジメント

※エリアマネジメント：地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者などが主体的に地域づくりを進める取組み。